

【特別企画】



全国トラックドライバー・コンテスト 内閣総理大臣賞 受賞記念インタビュー

【取材協力】西濃運輸株式会社

全国トラックドライバー・コンテスト(主催:公益社団法人全日本トラック協会)は、高度な運転技能と専門知識を競い合い、プロトラックドライバー^{ひとし}日本一を決める大会です。昨年は西濃運輸株式会社 尼崎支店の西林 仁さん(11トン部門)が総合得点第1位となり、栄えある内閣総理大臣賞を受賞しました。ここでは西林さんの喜びの声をお届けします。

ドラコンは日頃からの安全運転の 大切さを改めて学べた場所でした

— 普段の業務内容を教えてください

兵庫県南東部エリアを中心に、午前中は11トン車で配達、午後からは4トン車に乗り換えて集荷を行っています。今は安全推進インストラクターとして、支店に所属する新人ドライバーの教育も担当しています。ドライバー歴は16年ほどで、前職は畑違いの飲食業界で働いていましたが、西濃運輸は求人条件が希望に合ったので、頑張ってみようかと飛び込んでみました。

— 大会に出場するきっかけは？

実は2019年に4トン部門で兵庫県大会に出場したのですが、入賞できずに悔しい気持ちでいっぱいでした。翌年、再挑戦を目指していましたが、コロナの影響で中止に。コロナ禍で次いつ出場できるかわからない状況でしたが、社内の研修で集まった兵庫エリアの他のインストラクターから伝わる熱量のすごさを目の当たりにして、自分のやる気にも火が着きました。県大会を突破できたのは、インストラクターとして自分の中に積み上げてきたものがあったからだと思います。

— 全国大会に向けてどのような練習をされましたか？

特に意識して行っていたのは、ホーム付け。大会の直前には、日野自動車のお客様テクニカルセンターで、あい路とスラ



試験官と話しながら競技の順番を待つ西林さん。



11トン部門での優勝、そして内閣総理大臣賞を受賞し、喜びの表情を浮かべる西林さん。

ルーム、バックスラルームからの車庫入れなど本番を想定した練習を行いました。そこには大会に出場する他のドライバーも参加していて、良い刺激になりましたし、仲間意識も高まりましたね。

— 競技にはどのような気持ちで臨まれましたか？

競技前にバスの中で待機するのですが、そこが一番緊張しました。でも競技車両の前に立つと逆に楽しくなって、試験官に「めっちゃいい笑顔だね」と言われたほどです(笑)。法規走行では減点はなく、練習通りうまくいけましたね。

— 受賞の感想をお聞かせください

「よっしゃー!」ではなく「えっ?」みたいな驚きが一番。学科では間違いもあったので、「入賞できたらいいな」くらいの気持ちで発表を聞いていました。表彰式の様子はライブ配信もされており、結果が発表された瞬間からポケットに入れていたスマホがずっとブルブル震えていました(笑)。家族や会社の仲間、お客様にも喜んでいただきましたし、私がインストラクターになる際にご指導くださった方には、「おめでとう!」と目に涙を浮かべ言ってもらえ、優勝の実感がわいてきました。

— 安全運転のために意識していることは？

“車を動かす前に安全確認をする”ということです。大会でも普段通りの確認ができたからこそ、賞につながったと思います。安全確認はどのドライバーもできていますが、時間が経つにつれて自己流になってしまうもの。確認を怠ると事故は起こるので、インストラクターとしてもそのあたりを指導で修正していきたいですね。まずは支店の事故ゼロを目指し、目の前のことから固めていきたいと思っています。